

病気のウサギとの付き合い方

1 病気のウサギの環境

みんなの協力

・家族：病気のウサギをかかえていると、仕事を調整しながら病院へ連れて行ったり、まめに看護したりで一人では大変です。経済的な問題もありますので、家族の協力は欠かせません。

・友人：同じ気持ちになってもらえて、相談のできる友だちがいると、とても心強いものです。動物好きな友だちをつくりましょう。

・生活医：病気は3つの力でよい方向に向かいます。ウサギ自身の力、飼い主の力、そして担当の獣医師の力です。特に病気のときは、獣医師とのコミュニケーションがとれるのととれないとでは、あらゆる面で違ってきます。日頃から信頼関係を築いておくと、いろんなことを一緒に乗り越えてもらえる仲間になります。

心地よく過ごさせる場所

ケージをどこに置くかは、とても大切なことです。目が行き届くところに置きましょう。温度、湿度、すきま風、騒音、ほかの動物の存在などすべてに配慮した、落ち着いてゆったりした気持ちで過ごせるところがベストです。

エサ、飲み水

担当の獣医師とよく相談して、そのときの状況に合わせた管理をしましょう。

記録ノートをつくる

ノートを用意して、看護にあたった人がその様子をメモしておく、次にバトンタッチした人も状況や症状がよくわかりますし、病院へ連れて行ったときも大変役立ちます。しゃべることのできないウサギに代わって、様子、呼吸の状態、便尿の回数や色、エサと飲み水の量、体重の変化などを記録しておきましょう。

看護のときの思いなど、ちょっとしたことを少しでも書き添えておくと、ノートの内容が生き生きするかも知れません。

2 不治の病の場合はどうしたらいいか

100%治らないと判断できることは決してありませんが、治りにくい、または危険度が高いということを想定してお話しします。よくなること、元通りになることとも別のことで、家族としてのウサギが快適に過ごせるように考えなければなりません。

悪性腫瘍（癌）

早期の手術などにより、完全除去すれば完治することもあります。転移や再発も起きやすいので、こまめに定期的に診察を受けるとよいでしょう。腫瘍ができた部位にもよりますが、末期までは苦しむことも少ないので、手術や治療ができない場合でも、大切に看護していきましょう。

慢性腎不全

年齢が進むにつれ、腎臓の細胞がこわれていきます。細胞の数が4分の1くらいまでに減ると、初めて症状が出てきます。やせたり、脱水で皮膚の弾力がなくなったり、尿の量が増えて水の飲み方が多くなることもあります。輸液などの治療で元気になることもありますが、減った細胞が増えることはありませんので、安心しないで適切な治療を続けます。水をきらさないように注意しましょう。

斜頸や脳炎

エンセファリトゾーン（ウサギ脳炎微細胞子虫）が原因で起こる神経の症状もよく見られます。免疫力が低下しないように、適切な投薬を受けます。

口腔疾患

歯の不正咬合で過長症になる場合は、定期的に削る必要があります。歯根部で細菌が増えて骨が化膿すると大変治りにくくなります。

消化器系

腸内でグロストリジウムなどの毒素をつくる菌が増えると、生死にかかわることもあります。脱水症状にならないよう、病因で適切な治療を受けなければなりません。

呼吸器感染症

パストレラ菌を持っているウサギでは、よく慢性的に鼻炎の症状を起こします。肺炎や敗血症に進むこともありますので症状がひどくなる前に早めに治療を受けましょう。

骨の病気

体の中の骨の割り合いがネコの3分の1といわれていますので、骨折には十分気を付けます。背骨が折れると歩くことができなくなったり、便や尿ができなくなることもあるからです。抱くときには座って抱くようにし、万が一でも飛び下りたりすることのないように気を付けましょう。

日射病・熱射病

高体温になることにより、体のあちこちの細胞が急速にダメになってしまいます。腎臓や脳までおかされてしまいますので、直射日光や気温の異常な上昇に注意します。

3 最終的に死を迎えるときの対処

物理的なことと飼い主のメンタル面

物理的なこと

あなたのウサギがもし高齢の場合、すぐに「年だから」とあきらめないで、いろいろなことを総合的に判断してあげる必要があります。そうでないと治るはずの病気も治らなくなってしまうかもしれません。主治医とよく相談したうえで、冷静にその動物に合った最良の方法を選びましょう。

死を迎えるときに起こり得るあらゆる状況をあらかじめ考えておくことも、飼い主の役目といえます。

ウサギが死に近づいてくると状態が悪くなり、無意識に鳴いたり痙攣（けいれん）したりすることがあります。でもこれはほとんどの場合、痛みや苦しみによるものではありません。このような症状に対して、飼い主が悲しみでいっぱいになったり、感情的になったりすると、ウサギは飼い主の精神面の変化を察知して不安になってしまいます。ウサギのためには、苦しくても普段どおりに接してあげることが大切です。

どんな難病であっても、ウサギが少しでも快適に過ごせるよう、希望を持って接してあげましょう。目を閉じていても耳は聞こえているかもしれません。撫でてもらう感覚はわかっているかもしれません。「ずっとずっと大好きだよ」「いい子だね」「いつもありがとう」など、静かに優しく話しかけながら愛撫してあげましょう。

いとしいものの死を見つめるのは辛いことですが、住み慣れた家、これまで過ごした匂い、かわいがってもらった人たちの声の中で過ごせることが、ウサギにとってはなにより幸せなことだと思います。心配なことがあれば、遠慮せず主治医に相談しましょう。

メンタルな面

動物は人間より寿命が短いので、普通は飼い主が死を見取らなければなりません。家族の一員として喜びも哀しみも一緒に見つめてくれ、言葉を話さなくても、慰められたり励まされたり、いやなことを忘れさせてくれたりしたことと思います。

これまで一緒にすごした時間を振り返って、思い出のエピソードを文章にまとめたり、五行歌にしたり、アルバムを作ったり、同じ気持ちの人と語り合ったりしてみましょう。

姿が見えなくなって「0（ゼロ）」になったような空しい気持ちでいる方もいらっしゃるでしょう。でも、落ち着いて考えてみると、そのウサギが残してくれた楽しい思い出や、

その子がいたために友だちになった人との絆や、家族の心を一つにしてくれたすばらしい存在感など、プレゼンとして遺されたものがたくさんあるはずです。

どうぞ一つの思い出を大切に、悲しみのベクトルをちょっと変えてみてください。私たちの飼った犬（クマ、ロン、メリー）、ウサギ（プー、ラビ太）、スズメ（チュン）、猫（ダイスケ、ニャニャ）、ハムスター（タロウ）、文鳥（ピー、チー）が亡くなったときに作った五行歌を紹介します。

夢の中で
もう一度
逢えたら
抱きしめて
あげるよ

ときどき
思い出
かじってね
きっと元気に
なれるから

天国に
いっても
ずっと
いつまでも
大好きだよ

愛された命って
みんなの心の中で
いつまでも
生きつづけて
いくんだよ

天国で
また逢おうね
それまでは
夢の中で
あそぼうね

よろこびも
かなしみも
だまって
いっしょに
みつめてくれたね

わが家の
歴史に
たのしい足あと
いっぱい
遺してくれたね

よろこびは
倍
かなしみは
半分に
してくれたね

おもいで
かけら
あつめたら
きみの
シルエット

短い分
愛しくて
大切な
おもいでって
あるんだよ

あなたの思いでも五行歌にしてみませんか。短歌や俳句と違って決まりはほとんどないので、なんでもOK。心そのままに歌にして。この世の中に生きた証を残してあげてください。

参考までに五行歌とは

- 1 5行で書く新形式の歌。
- 2 1行は一息で読める程度の長さに。
- 3 数字、横文字、記号など、何を使ってもOK。
- 4 季語などは入れなくてよい。
- 5 話し言葉（口語体）で表現する。

コラム

法律が変わっても心が変わらないと

この頃、来院する飼い主さんから、びっくりするくらい専門的な質問を受けることがあります。「ウサギの人畜共通感染症のパスツレラ症の検査は先生のところでできますか？」インターネットの普及で、ホームページの書き込み情報による質問らしい。ハイレベルになっている反面、昔のままの知識を振りかざしているペットショップもあって、ドキッとすることもしばしばです。

「かわいそうで連れてきちゃった。こんな歯でちゃんと食べられるわけないですよー。落ちているウンチも小さくて、もう心配になっちゃって。オスっていうけどメスみたいだし……」

動物が大好きでウサギ2匹、猫2匹（それも1匹は引っ越しで置いていかれた8歳の猫）を飼っているYさん夫婦が、診療時間ギリギリでとんできました。

どうしたのかと思ったら通りすがりにのぞいたペットショップで、狭い水槽の中にこのウサギがいたそうです。ネザーランドドワーフという種類の茶色の子です。Yさんのほうへ寄ってきたので、つい目が合っしまい、よく見たら切歯（前歯）がぐるりとうずを巻きそうになっていました。

お店のおじさんが気付いていないのかと思い「この子、歯がちょっと」と遠慮がちに言ってみたら「うちのウサギはフードだけやっているから、病気なんてひとつもないんだ！」と怒鳴られました。おばさんが「切ってあげたら」と言っても「いや、今はダメだな一カ月してからだ」

この会話に驚きと不信感を抱いたYさんは「いくらですか」と、つい聞いてしまったそうです。「おまけしとくよ。9000円だけど6000円でいいよ」

あれから一カ月、オドオドした目つきも落ち着いて、歯も干し草中心にしたら少し違っていい感じです。

平成12年12月に「動物の愛護と管理に関する法律」が新しく施行されました。改正されたポイントは、動物の虐待防止と動物への十分な知識と理解を持って飼うこと、動物

は命あるものであることが強調されています。罰則もこれまでより厳しくなりました。このペットショップのおじさんの飼い方が法的に違反かどうかは別として、動物に接するすべての人に正しい知識の普及ができれば、と思います。s